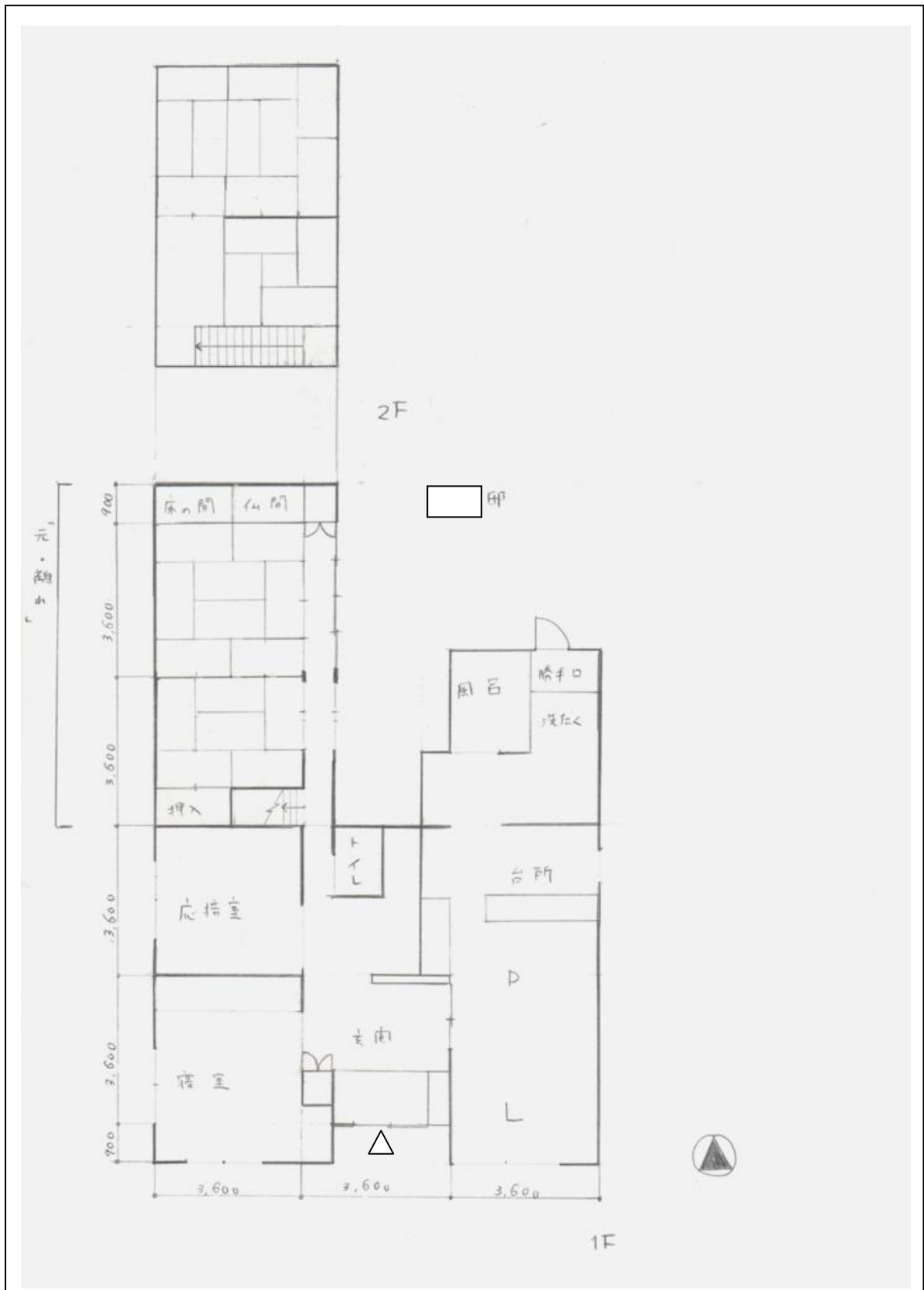


遅れてしまいましたが、10月10~12日のヒアリング調査の一部をまとめたので、添付させていただきます。

①中町10邸について 居住者2人(夫婦) 最大滞在者8~10人(子どもと孫)



ヒアリング項目

〈日常〉

1. 来客の際、お客をどの部屋に通すか。
→だいたいみんなリビング。
2. 普段、食事をとる部屋はどこか。
→ダイニング。
3. 家族のだんらんの場としてどの部屋を思い浮かべるか。
→(回答なし)
4. 家族の寝る部屋はどこか。
→夫婦寝室。(日当たりのいい場所を指定し、通りに面したところにする)
5. 家族成員のそれぞれの個人のスペースはどこか。
→(回答なし)
6. 家事を行う場所はどこか。
→(回答なし)

〈非日常〉

1. 来客の際、お客をどの部屋に通すか。
→応接室。
2. 食事をとる部屋はどこか。
→ダイニング。
3. 家族のだんらんの場としてどの部屋を思い浮かべるか。
→(回答なし)
4. 家族の寝る部屋はどこか。
→夫婦：寝室 親戚：元・離れ
5. 家族成員のそれぞれの個人のスペースを行う場所はどこか。
→(回答なし)
6. 夏祭りで、お供えものをどこに飾るか。
→玄関。
(昔は通りに面したところに座敷があり、そこに飾っていたが、新築にあたってお供えを考慮しなかったため、日当たりのよい通り側に寝室を作った結果、寝室を開けるわけにはいかないので玄関に飾らざるを得なかった。)

その他、調査のまとめ

・帰省してくる家族

長男夫婦と孫一人(輪島)、次男夫婦と孫一人(三重県津市)、娘二人(双子)(金沢、韓国)

・再建するにあたってこだわったこと

- 1.家の前にある松と、裏にある井戸を残すこと。
- 2.バリアフリーにすること。
- 3.離れを残すこと

離れ：双子誕生の際、部屋数を増やすにあたって、同居していた父親新しい部屋での生活をさせてあげるために建てた。(S57)自分で建てたものなので残したいと考えて今回再建にあたって残すことを選択。

- 4.寝室は日当たりの良いところにする。

(このため応接室は日当たりが悪くなるも、天窓をつけるといった工夫をしている)

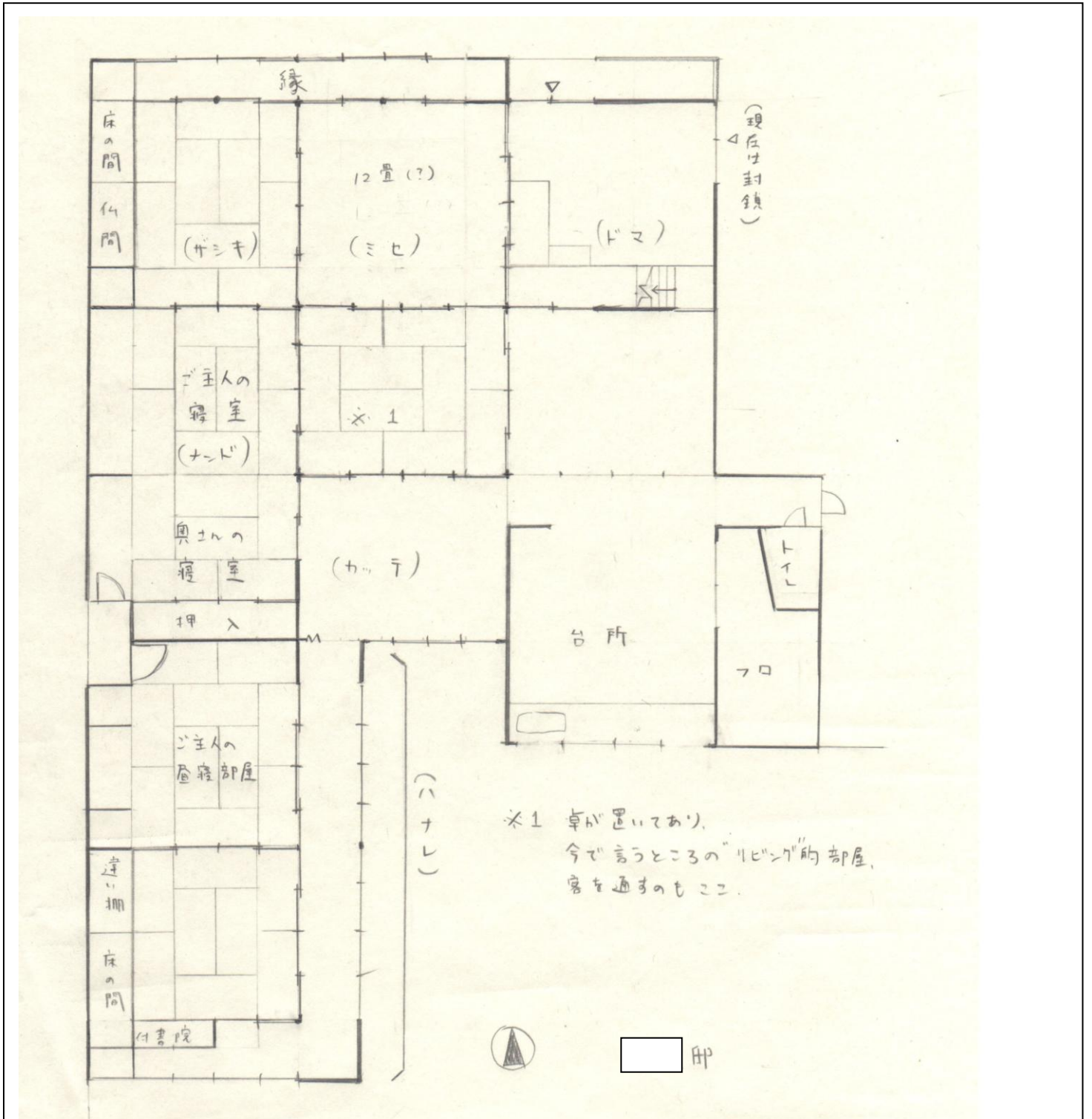
- 5.対面式のキッチンにすること。(妻の希望)

・その他備考

- 1.次男が家を継ぐ予定。(次男もそのつもり)
- 2.蔵が震災でなくなり、置き場所がなくなったので収納物はだいぶ捨てた。
(ex.布団 20 人分→10 人分 など)

②東町 25 邸について 居住者 2 人(夫婦)

最大滞在者 11 人(弟世帯、子ども世帯)



ヒアリング項目

〈日常〉

1. 来客の際、お客をどの部屋に通すか。
→平面図※1の部屋(“リビング・ダイニング”の役割をもつ部屋)
2. 普段、食事をとる部屋はどこか。
→平面図※1の部屋
3. 家族のだんらんの場としてどの部屋を思い浮かべるか。
→(回答なし)
4. 家族の寝る部屋はどこか。
→平面図参照(夫婦別に部屋がある、ご主人の昼寝の部屋がある)
5. 家族成員のそれぞれの個人のスペース
→(回答なし)
6. 家事を行う場所はどこか。
→(回答なし)

〈非日常〉

1. 来客の際、お客をどの部屋に通すか。
→かしこまった客は最近では来ない(のでわからない)。
2. 食事をとる部屋はどこか。
→※1の部屋。人数が多い時はミセなども使う。
3. 家族のだんらんの場としてどの部屋を思い浮かべるか。
→(回答なし)
4. 家族の寝る部屋はどこか。
→夫婦はそれぞれの寝室。
人数が多い時は子どもは離れ、大人はミセ、ザシキ。
人数が少ない時はみんな離れ。
5. 家族成員のそれぞれの個人のスペースを行う場所はどこか。
→(回答なし)
6. 夏祭りで、お供えものをどこに飾るか。
→ミセの前の縁。

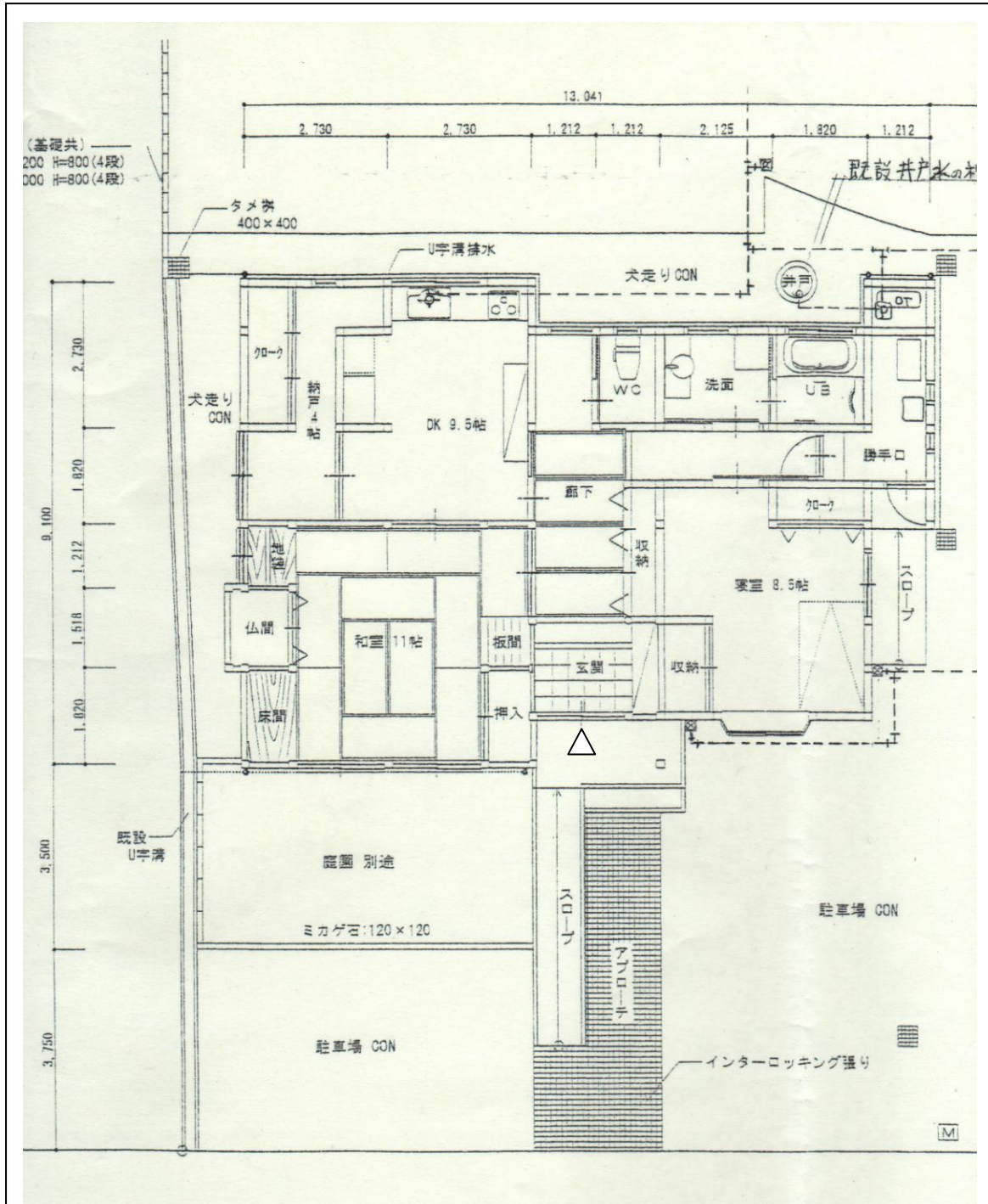
その他、調査のまとめ

・ 帰省してくる家族

娘夫婦と孫二人、弟夫婦、弟の長男夫婦、弟の次男

・ 昔、ザシキ、ミセで冠婚葬祭をやった名残で食器が蔵に 20 人分はある。
(当時は 50 人分はあった)

③東町 17 邸について 居住者 1 人 最大滞在者約 8 人(子ども世帯)



ヒアリング項目

〈日常〉

1. 来客の際、お客をどの部屋に通すか。
→ 普通は玄関。親しい人はザシキ(和室)。
2. 普段、食事をとる部屋はどこか。
→ ダイニング。
3. 家族のだんらんの場としてどの部屋を思い浮かべるか。
→ ザシキ。ダイニングのザシキ側に置かれたソファ
(ザシキを向く形に置かれている)。
4. 家族の寝る部屋はどこか。
→ 寝室。
5. 家族成員のそれぞれの個人のスペース
→ (回答なし)
6. 家事を行う場所はどこか。
→ (回答なし)

〈非日常〉

1. 来客の際、お客をどの部屋に通すか。
→ かしこまった客はあまり来ない(のでわからない)。
2. 食事をとる部屋はどこか。
→ ダイニングとザシキ。
3. 家族のだんらんの場としてどの部屋を思い浮かべるか。
→ ダイニング。
4. 家族の寝る部屋はどこか。
→ ザシキ、ナンド、ダイニング。女の子は寝室。
5. 家族成員のそれぞれの個人のスペースを行う場所はどこか。
→ (回答なし)
6. 夏祭りで、お供えものをどこに飾るか。
→ ザシキ。

その他、調査まとめ

帰省する家族

- ・ 娘夫婦と孫二人、娘夫婦と孫二人、息子夫婦と孫一人、息子夫婦と孫二人、
息子夫婦と孫一人(うち、三家族くらいが泊まっていく)

再建するにあたってこだわったこと

1. ダイニングとザシキは襖を開ければつながっているようにしたい。
(くつろぎたいから)

- 2.通りに面したところをザシキにして仏壇を置き、お供えものが通りから見える位置にできるようにすること。
- 3.玄関を入れてすぐ部屋は嫌だ。
- 4.玄関はくつろげるように畳敷きにして(あったかい感じがするから)、広くしてほしい。
- 5.トイレ・風呂と寝室は直接つながるのは嫌だから、廊下を挟むようにすること。
- 6.収納をできるだけたくさんつけること。
- 7.勝手口の位置。(平面図参照)

その他備考

- ・子どもはこの家を継ぐ気はないので、居住者が暮らしやすいように、くつろげるようにだけを考えて設計。(帰省は考慮)

①～③の事例を通して

- ・各家の居住者数の減少に伴い、広い伝統的な四つ間取りに対するこだわりは薄れていく傾向にある。
- ・三つの住宅すべてにおいて、仏壇がおける和室だけは必ず確保されている。
- ・ヒアリング項目になかったが、玄関、収納、採光(どの部屋が日当たりがいいようにしたいのか、など)に対するこだわりも重要な項目であると感じた。
- ・田辺氏のヒアリングから得た情報によると、昔は「結」が機能していて冠婚葬祭は結が主体となっており行っていたが、人口の減少と高齢化に伴い、お互い結が返せなくなってしまいシステムがなくなってしまったとのことだ。この影響か、いまだ四つ間取りの形式を残す高坂家でも、冠婚葬祭はもちろん、法事もあまり家ではやっていないようだ。このことから、例え伝統的な間取りが残っていても儀式などが存続するわけではないことがわかる。
- ・接客空間としてはリビング(それと同等の機能を持つ部屋)で行われることが多いことがわかる。
- ・高坂家のような伝統的間取りを持つ家では、通りからザシキやミセに直接上がれる仕組みになっているが、再建型の2事例では玄関、勝手口以外からの出入りは想定されていないことが分かる。
- ・お供え物については必ずしも全員が考慮できたわけではない。
- ・台所と食事室の距離は近代化に伴い近づく傾向にあると考えられる。

小論発表に対するコメント

未熟な小論文を読んで、ご意見して頂きありがとうございました。

小論文作成

・いろいろな研究についての論文を読めたことは自分の中では大きな成果として感じているが、みなさんのご指摘の通り、論文の選択が恣意的であることや、論文の図・表の大切さなど、まだまだ吸収しきれていないのが反省点だと思います。

・今回、本当は小論文の締め切りまでに自分で調査に行くべきところを、動き出すのが遅くて期間外の調査となってしまったことも大きな反省点である。今後は全体的な計画を立てて動けるようにしたい。

質疑応答

朴さん

1. 図・表が少ないのはなぜか。

→図、表の大切さを理解していなかったことを反省。

2. 2章に対して3章が少なすぎる。

→道下のヒアリング項目の検討をするより、論文を読む方に多くの時間を割いてしまった結果が、そのまま表れてしまったので、ここももう少し作業の分量をうまく計算できなかったと反省。

浅井先生

1. タイトルが不正確。

(道下集落について特化したものであることを明記すべきなど)

2. 事例と挙げているものが適切でない。

(恣意的。また、うまく活かしきれしていない。)

3. 分類の仕方が恣意的。

(質的・量的な調査の分類など、一般的な分け方がなされていない。

もっと自分の調査に対して“ライバル”的なものも調べるべき。

分類が独立していない、など)

4. 論文ではなく方法論についての文献を読むべきだったのではないか？

cf. 質的研究入門など

山口先生

1. 図法が少ないのがだめ。どういう図で表していたのか、ということまでまとめた方が、分類として正しい形が見えたのではないか。

山崎先生

- 1.研究の位置づけがブレている。
- 2.実際の調査までを今回の発表でまとめるべきだった。
(これがコアになるべき)
- 3.図・表を通じてどうアウトプットしたのかが大事。
(最後の図に結論があらせていることが理想。)
- 4.自分の判断で情報を切り捨てすぎるのは避けるべき。
- 5.自分の論理が伝わるようなプレゼンテーションにすべき。

発表を振り返って

- ・ 図・表の重要性をわかっていなかったことは大きな反省点の一つである。
また、ヒアリング調査を発表までにまとめていなかったことも反省点の一つである。
- ・ 伝えるべき要点がズレた発表となってしまったので、もっと発表内容を吟味すべきであったと感じた。
- ・ 結論に至るまでの過程が不透明であったので、論文として論理性に欠けたものになってしまったことを反省。また、構成としても論理的に欠陥があるというご指摘も受け、なるほどと感じた。
- ・ 伝統、現代などの線引きがあいまいだったので、そのあたりをもっと勉強して検討する必要があると感じた。